

2015 vol.40

# UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

# P R E S S



特集

団地から  
始まっています!

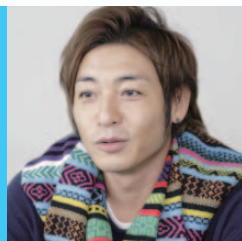
## 新たな「ミクストコミュニティ」づくり

Special  
Interview

地元が大好き!  
地域の人々とつながりながら  
多世代交流を楽しみたい

俳優・ミュージシャン

つるの剛士さん



## CONTENTS

01 まちの記憶 ③ 「町に沈む記憶」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす ③

### つるの剛士さん

俳優・ミュージシャン  
地元が大好き！  
地域の人々とつながりながら  
多世代交流を楽しみたい



07 特集 団地から始まっています！

### 新たな「ミクストコミュニティ」づくり

- 09 1 Yuimâru 高島平団地  
多世代がいきいきと暮らすために 高島平団地の新しい試み
- 13 2 University 金山団地  
団地にも大学にも「win-winの関係」をつくる新しい連携に注目
- 15 3 Café 滝山団地  
団地に生まれたカフェが出会いとぬくもり、安心を育む
- 16 Other Challenge 健康寿命サポート住宅、箕面栗生団地

17 ベランダ菜園の楽しみ ④ たなかやすこ

春のはじめに小カブの種をまく



18 人気ブロガーの団地DIY術 ④ Kume Mari

ふすまがスライド可能なアンティーク調ドアに変身！

世界の扉を開く本 ④ 三田修平

テーマ▶格好よく年を重ねる

19 URのまち あのみち・このまち・歩いてみよう! その①

神戸ハーバーランド(兵庫県)

21 復興の「今」を見に来て! ④

人が集い、笑顔で触れ合う南三陸さんさん商店街  
「自然に寄り添う暮らし」の復活・実現に向けて  
宮城県南三陸町



25 プレゼント付きクロスワードパズル

26 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.40  
2015年1月31日発行

発行 独立行政法人都市再生機構  
〒231-8315  
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー  
Tel 045-650-0892 Fax 045-650-0889

制作 日本経済社  
編集協力 新潮社、編集室りっか  
デザイン 太田デザイン事務所  
印刷 凸版印刷  
※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。

### 表紙の世界

去年の大雪。見慣れた風景もまるで違って見えて音もいつもと響き方が変わって遠い所に来たようでした。そんな日を思い出して描いてみました。

イラストレーション・小林マキ



かくた・みつよ  
作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。『対岸の彼女』(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は「笹の舟で海をわたる」(毎日新聞社)。

## 町に沈む記憶



### 東京で暮らしていると、

町の変化がよくわからない。実際は、あれ、ここにあったビルがなくなっただ、とか、こんな巨大な建物ができている、とか、しょっちゅう驚いている。あったものがなくなったり、なかったものが出現したりすると、それに気づくより先に、視界が何かくにやりと歪んだような錯覚を抱く。それで、ああ、と理解するわけである。

けれども、総合的にどう変わったかということが、わかりづらい。それはつまり、どこが変わっていないかも、とらえづらいうことだ。これは東京の町の特性ではなくて、私の日常の場だからだろう。日常的に触れたり見たりしているものは、変化や不変がわかりづらい。

### これが旅先だと、

すぐわかる。昨年のはじめ、スリランカにいった。十四年ぶりである。コロンボの町には近代的な高層ビルが建ち、お洒落なショッピングモールが建ち、はじめて訪れたのと変わらなくらい知らない町になっていた。それでも、町を歩いていると、なんでもない場所がびたりと記憶と重なる。点々と浮かび上がる記憶をつなげるように歩いていくと、当時からずっとあるお寺や公園に出る。バスターミナルの喧噪、その周辺に密集する商店、色鮮やかな屋台の果物、ドアから身を乗り出し車掌がいき先を大声で告げるバス。以前も見た、歩いた、触れたもの、会話した人が次々に浮かび上がって、十四年前の旅そのものを、もう一度旅することができる。

近代的な建物やお洒落な店といった、めざましい変化に目をこらしていると、不思議なことに、見えてくるのは、変わっていないものばかりだ。その「変わっていない」部分だ。その町の持つ本質なのだろうと、旅をしていると実感する。たとえばコロンボの町だったら、日向と日陰のコントラストや、近代化と手つかずの自然の矛盾のない共存、仏像が町の至るところに飾られているのに象徴される厚い信仰心、そして人々の寛容さ。そうしたものを、どれほど町が発展しても、人々が都会的に洗練されても、二十年後の旅人もきつと味わうはずだと私は思う。

私の暮らす町でも、ただわかりづらいだけで、そうした変化と不変はあり続けるはずだ。絶え間なく変化し、そのぶん不変はさらに根づく。

### 散歩の途中、

なんでもないクリーニンク屋さんの前を通りかかって、「あ」と声が出そうになった。その道はめったに通らないから忘れていたけれど、この町に引越したばかりのとき、はじめてビールを買った店だったと思いついたのである。その当時は酒屋さんで、借りた部屋からいちばん近い商店だった。酒屋さんだったところを思い出すと、とたんに、その角を曲がったところで飼われていた犬や、その先の駐車場でおこなわれていた猫集会なんか、次々と思い出された。

ああ、やっぱり、自分の住む町にも、旅とは違う記憶が染みこんでいるのだなあ。



# つるの剛士

さん 俳優・ミュージシャン

## 地元が大好き！ 地域の人々と

## つながりながら 多世代交流を 楽しみたい

「理想のイクメン芸能人」との呼び声も高い、つるの剛士さん。お住まいのある湘南で、地域との関わりを大切にしながら、4人の子育てに奮闘中です。その原点は、子どもの頃の社宅住まいにあるのかもしれない。地元への愛にあふれたつるのさんが考える、多様な世代がゆるやかにつながる社会とは？

### 育児休暇取得が 大きな反響に

4人目の子どもができたときに、2カ月間育児休暇をとったのですが、その反響の大きさに驚きました。

ちょうど1人目の息子ができたときにNHKの子育て番組をやっている、その特集で育児休暇を初めて知りました。次に子どもができたらとりたいたいな、と漠然と思っていましたが、4人目ができた年にちょうど「ベスト・ファーザー・イェローリボン賞」というすてきな賞をいただいたんです。その頃は「羞恥心」で忙しくて、地域の人も全然かわらず、仕事ばかりで育児もできず、頭のなかもパンク寸前。昔から父が、「仕事と家庭のバランスはちゃんとしてけよ」と言っていたのが脳裏にあり、その授賞式のときに「育

### 4人の子育て 真っただ中

いま、10歳の長男を筆頭に、8歳、7歳、5歳の女の子の4人の子育て真っただ中です。じつは僕も4人兄妹の長男で、下に3人妹がいます。なので、子育ては自分の記憶のなかにある両親の姿が基本になっています。両親はとっても仲が良く、特に叱られたことも、きつく嫌を受けたこともなかった。だか

ら、うちも難しいことを言うより、夫婦仲良くしていれば子どもは勝手に育つかなと思っっています。

僕はもともと子どもが好きで、初めて子どもが生まれたときはみんなに自慢したくて、よく子どもを連れて出かけていたんです。でも、10年くらい前には、乳児室に行ってもパパはいないし、男性トイレに入ってもベビーカーがなくて自分の用がたせなかったりと、現実的に男性

が育児に入っていける環境ではなかったんですね。それに比べると、今は男性も子育てに参加しやすい環境になったなど実感しています。

子育てをしながら思うことですか？ 好きな仕事をしている僕みたいに、子どもたちにも早く自分の好きなものを見つけてもらいたい、ということですね。親として、それをバックアップしてあげる存在でありたいと思っています。

つるの・たけし  
1975年生まれ、福岡県出身。「ウルトラマンダイナ」のアスカ隊員役を経て、2008年「クイズ！ヘキサゴン」でユニット「羞恥心」を結成しブレイク。音楽活動とともにタレントとしてもマルチに活躍中。将棋、釣り、楽器、サーフィン、イラストなど趣味・特技も幅広い。ふじさわ観光親善大使。



り迎えしたり。それはそれで楽しかったんですけど、いちばん思ってたのは「奥さんって大変だな」ということ。何が大変かって、毎日同じ時間に同じことをやらなければならぬことです。芸能界に限らず、仕事をしていけば、毎日のスケジュールに変化がある。でも、家に入ってしまうと毎日あまり変化がなく、こういう時間になるんだというのがわかったんですね。だから、うちに帰ったらちゃんと奥さんの話を聞いてあげなきゃいけないな、と実感としてわかるようになりました。

### 湘南に引越して地域のつながりを実感

都内から湘南に引越したのも、ちょうどその頃ですね。「子どもにいい環境だから？」と聞

児休暇とります！」と言っちゃったんです。

事務所に相談もしなかったから、社長がひっくり返りましたけど(笑)。周りの芸人さんたちからは、「(休暇明けに)戻ってくるとこないじゃん」ってさん

もたち30人でキャンプに行きました。

僕が住んでいる地域には、おじいちゃんおばあちゃんもたくさん住んでいらつやいます。毎月草取りがあるので、僕も子どもといっしょに参加しますが、「子どもたちの声がするまちは安心する、どんどん参加してほしい」と、すごく喜ばれるんです。うちの子もたちも、おじいちゃんおばあちゃんの作業を見て、昔ながらの知恵を学べるし。草取りが終わったあとは、お茶やビールを飲みながら話したり、将棋好きなおじいちゃんと一緒にやりましょうか、なんてね。そういう多世代交流は大事だなと思いますね。

仕事が終わったら、直帰です。東京は仕事する場所、湘南は完全プライベートって感じで、自分のなかでスイッチが切り替えられるのもいいんです。でも、すごいですよ、3年で車16万キロ走りましたから。タクシートの運転手さんにも「俺より乗っている」って言われました(笑)。それでも帰っちゃいますね。

### 団地世代が多世代交流の接着剤に

そうやって今、自然に地域の人と親しくできるのは、子どもの頃に団地のような社宅に住んでいたことが大きいのかもしれません。父が銀行員だったので転勤が多くて、二十歳になるまでずっと社宅住まいだったんです。それも何棟も建っている団地みたいなところ。小さな子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、本当にいろんな世代の方が住んでいました。東京の練馬にいたときは、2LDKに8人で住んでいましたね。子ども部屋に4人、おじいちゃんおばあちゃん、父ちゃん母ちゃん、そこに猫とハムスターが2匹いたんで、すごいことになってた(笑)。今考えたらギョウギユウ詰めで暮らしてました。

この2LDK8人暮らしの経験があるせいか、僕はすごくシンプルに、地域の人たちと仲良くしなければダメだなと思うんです。隣の人がどんな人かわか

地域のパパ友、ママ友と子どもたち総勢30人で、千葉の海でキャンプを楽しんだ。



らないような生活って、なんだか怖い気がするんですよ。

社宅にいたときも、社宅だけのお祭りや肝試し大会があったり、めっちゃ怖いおばあちゃんやカメラリ親父がいて、子どもが遊んでいると声をかけてくれるのが当たり前でした。いまは、扉をどんどん高くして守っていかうという感じ。それも大切かもしれないけど、ちょっとさみしいと思うんですよ。むしろ子どもをなくして、地域でしっかり子どもを見たりできるのが理想じゃないかな。

ご高齢の方もつとおせっかいなって、いろんなことを教えてほしいし、地域で声をかけ合ってゆるやかにつながれると

かれるんですが、ただ僕が遊びたかったからです(笑)。釣りが好きで、よく奥さんとデートに行っていたまちなんですが、狙っていた物件がポンとあいて、このタイミングだった。

これがまた、住んでみたらほんとうにいい所なんです。自然があるし、海というキーワードでつながれる地域のみなさんがある。彼らはちゃんと仕事をしながらも、どこかにゆとりがある人たちです。

地域のよさを実感したのは、引越して間もなくですね。長女が肺炎になって救急車で運ばれたことがあったのですが、そのとき近所の方がたのみもしないのに来てくれて、「子どもは見とくから大丈夫、行ついで」って。

僕は育児は家庭のなかでするものだと思っていたんですが、「育児は地域でするものなんだ、自分も地域に出て子育てしなきゃいけない」と思った瞬間でした。今は家にしよっちゃうよその子どもが遊びに来るし、去年の夏はパパ友、ママ友と子ど

いいですね。そうやって、安心して暮らせる社会の縮図が、団地にあったらいいなと思います。ちょうど僕らは、団地に住んでいた人がいっぱいいる世代。いろんな人たちと関わりを持つことに抵抗のない、僕らのような団地世代がどんどん地域に出て行って、自分たちと違う世代の人たちと交流を持つ接着剤になればいい。例えば僕が経験したようなお祭りや草取りのようなイベント、畑作業など、コミュニティが生まれる仕組みをつくるとか。異なる世代が互いに関わりを持ちながら、クリエイティブなことができる橋渡しができるらしいなと思っっています。

バイクで30分の場所に借りた畑で、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に収穫。





金山団地



箕面粟生団地

# 団地から 始まっています！ 新たな

特集

西上原三千代=文、平野光良、佐藤慎吾=撮影



高島平団地

# 「ミクストコミュニティ」づくり

## 多様な世代が 暮らしやすいまち 団地ならできる

子どもや若者、子育て世代、中年、高齢者……、コミュニティとは本来、さまざまな世代が共生して成り立つもの。UR都市機構では今、多様な世代がいきいきと暮らし続けられる住まい・まちづくりを目指す「ミクストコミュニティ」に取り組んでいる。

そのひとつは、高齢者にとって使いやすく安全な住まいや健康維持に役立つ環境づくりなどの推進だ。現在政府が進めている、医療や看護、介護、生活支援サービスなどが連携して在宅を基本に生活する「地域包括ケアシステム」に沿って、地域で不足している施設の誘致や連携のバックアップなどにUR都市機構として積極的に関わっている。特に昭和40年代～50年代前半に大量に供給した大規模団地は地域に占めるボリュームが大きく、それだけに他より速く高齢化対策に取り組むことで、モデルケースになりうる場だ。

「地域のために団地をいかに活用できるか。まずは自治体とともに医療や看護、介護サービスの担当者や自治会、NPO法人などと話し合いを重ねていくなかで、各地域の事情に応じてUR都市機構が担える役割を果たしていきたいです」

ミクストコミュニティを進めるUR都市機構ウエルフェア推進事業部のチームリーダー、間瀬昭一は言う。

併せて、デザイン性の高い住戸へのリノベーションや、保育園や子育てサロンの設置、子どものいる世帯への家賃割引など、若い人たちが子育て世代に魅力的な住環境づくりを進めている。

「子どもから高齢者まで、いきいきとつながりながら暮らせる、優しい団地づくりを目指します」

UR都市機構ウエルフェア研究室長であり、在宅ケアの専門家でもある川上由里子も意欲的だ。

団地は共生や共助の可能性を秘めた場。団地の潜在的な力が地域に果たす役割は大きく、UR都市機構のミクストコミュニティの取り組みに注目と期待が寄せられている。



滝山団地



箕面粟生団地



滝山団地



高島平団地



「元気なうちは、団地のコミュニティーづくりのお手伝いもしたい」と話す大内さん。費用の計算がわかりやすく、マネープランが立てやすかったことも入居のハードルを下げたと話す。



玄関ドアを開けると約2.8畳の土間。この空間が面白い。ここから床面をかき上げしているの、段差のない居室が生まれる。



トイレ、洗面、洗濯機置き場は段差のないバリアフリー仕様。

ネーターが常駐。安否の確認や生活相談に応じ、緊急時や夜間はセムのサービスがカバーして対応できる体制をとる。直接的な介護サービスはしないが、地域の病院や介護業者と連携して、入居者への情報提供や助言、必要な手配や手続きを行う。

「中間のマネジメントを担うかたちですね。その方の生活背景や歩んできた道、家族状況などを把握し、本人のニーズや希望に合ったサービスを提供していきます」

コミュニティネットは高齢者事業の根底に、多世代が共に暮らせるコミュニティづくりや地域の再生を掲げている。サービス拠点はサークル活動などにも活用してもらい、ここを核として団地の自治会や5つある団地内のコミュニティカフェなども連携して、団地の活性化につながる活動も進

めでいく意向だ。ハウス長の古賀さんもオープン2カ月前から高島平団地に住み、自治会にも加入しているという。

**団地の良さに安心をプラス 新たな高齢者の住まい**

住戸は約42〜43㎡の1DKと1LDKで家賃は9万円台。20㎡前後が多い一般のサ高住に比べて広く、料金が割安なのも魅力だ。床を全体にかき上げて、風呂などの水回りも含め、居室内を段差のないバリアフリーにしている。南の壁面いっぱいには広がる窓から光が降り注ぐ明るさは、棟間に十分



「入居される方には、至れり尽くせりはしません。この団地の皆さんと楽しみをつかっていく暮らしを後押ししたい」と話すハウス長の古賀さん。

2級建築士の資格もお持ちの大内さん。床を無垢の杉板に変更、キッチンのガスコンロを一体型にするなど、各所にオプションを加え、納得のいく終の棲家をつくりあげた。



Mixed 1 ミクストコミュニティ最前線

# Yuimâru 東京

## 多世代がいきいきと暮らすために 高島平団地の新しい試み

東京都板橋区にある高島平団地は、30棟約8300戸からなるマンモス団地。昭和40年代に入居した方々が年を重ね、高齢化率は同区の中でも突出している。ここで多世代の人々の共生を目指す新たな取り組みが始まっている。



携帯機能をもった安否確認グッズ「マイドクタープラス」をセコムと共同開発。サ高住の居住者はこれを常に携帯する。風呂場にはこれを掛けるホルダーも。

### 分散型のサ高住が 団地に登場

高層集合住宅が整然と立ち並び、美しいケヤキ並木を人々が行き交う。1972(昭和47)年の建設当時、東洋一のマンモス団地といわれ、多くの家族の暮らしを支えてきた高島平団地。その一棟に、昨年12月1日、株式会社コミュニティネットを事業者としてサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)「ゆいまゐる高島平」がオープンした。ユニークなのはサ高住の30戸が一般住戸に混じって点在している

ことで、住戸単位で改修している。UR都市機構では一棟をまるごと高齢者施設用に賃貸したことはあるが、分散型は初の試みだ。

「入居者にとって社会と切り離された感覚が薄く、施設に入るというイメージがないことが、一棟建ての施設との一番の違いです」

ゆいまゐる高島平のハウス長、古賀真由美さんは言う。

とはいえ、バラバラの住戸に対して、サービスはどう提供するのだろうか。サービス拠点は、隣の棟の1階、商店街の中に設置されている。日中はここに生活コーデイ



1つの棟の中にサ高住の住まいが分散してある「ゆいまゐる高島平」。入居を決めた大内さんは「いろいろな世代の人たちと一緒に普通に暮らせること」が入居の決め手になったという。



UR都市機構が主催して行われた冬の寄せ植え教室。



団地内に4つある自治会が、それぞれ餅つき大会。はじめての体験に子どもも大喜び。つきたての餅は、きな粉と餡をまぶして、自治会の皆さんにふるまわれる。



MUJI(無印良品)とUR都市機構がコラボしたリノベーションプロジェクト。その部屋はシンプルで機能的。若い世代に人気がある。



## 多世代がいきいきと暮らすために 高島平団地の試み

さまざまな課題があるとはいえ、今も得たいメリットや魅力をもち、多くの居住者の愛着をつないでいる高島平団地。団地の良さを生かしたミクストコミュニティへの取り組みは、明日に向けて始まったばかりだ。

夏期のラジオ体操やカバさんプールの開設など子ども向けの施策、文化部や体育部による催し、春の桜祭り、夏祭り、秋には最大のイベントである団地祭り、年末には餅つき大会が恒例行事。祭りや餅つきには、訪れた親子連れの笑顔がはじける。また、UR都市機構自身も、緑化に対する広報と団地活性化を兼ねてガーデニング教室やリース教室を開くといった新しい試みを始めている。

ちろん今でも自治会だ。自治会は加入率の伸び悩みに手を焼きながらも、自主活動と住民同士の交流を担う。

好きで知られる女優、中田喜子さんが内装をプロデュースした住宅も登場する。UR都市機構の制度上でも、子育て中の家庭や29歳以下の人の家賃減額制度などが、整えられてきた。

若者やシンプルな暮らしを志向する人たちに根強い人気があるMUJI×URリノベーションプロジェクトの住まいは、現在団地内に23戸。入居者を決める抽選のときは平均倍率7倍、先着順募集では、出せばすぐ埋まってしまっような人気だという。また、DIY



サ高住の隣棟の1階に事務所を構えるゆいま〜る高島平。「ゆいま〜る」とは沖縄の言葉で「皆で助け合う」といった意味。

部から民間の専門家が入ってくることに、少しでも活性化への刺激になればと思います」

と高島平二丁目団地自治会の戸田敏之会長。高齢者に対する支援策はもろんだが、さらに望みたのは、若い人が入ってくるような施策だという。

UR都市機構でも、高島平団地で住宅のリニューアルによりバリアフリー化の整備を進めると同時に、若い人を惹きつけ、団地への興味を喚起するプランを打ち出している。

自治会によると、高島平団地は2012(平成24)年時点のデータで、65歳以上の占める割合が40%を超え、急激に進む高齢化の真ただちにあるという。建設以来、活発にコミュニティ活動を続けてきた自治会では、13年も前から会員同士で介助や家事援助等を行う「助け合いの会」を組織するなど手は尽くしつつも、高齢化に苦慮してきた。

「今回のような新しい試みで、外

をしていきたいと考えている。

大内さんはかつて都内の赤羽台団地で約40年もの間、暮らした経験がある。

「当時は家と仕事場の往復だけ。今回の団地暮らしでは、人生の最終章をコミュニティのなかで飾っていききたいと思っています」

募集した30戸は入居が決まり、申込者の三分の一は高島平団地内からの転居。今後空き家発生状況に応じて最大20戸まで増設していく予定だ。

### 若者や子育て世代にも 魅力ある団地へ

ある。しかし、何かあったときに周囲に甘えるわけにはいかず、一人暮らしの不安は拭えない。じつはかなり迷いましたが、入居を決断したときにはホッと肩の力が抜ける思いだったという。入居後は、ここでの暮らしをネットで発信するなど、自分なりの活動



サ高住は1DK・2タイプと1LDK・1タイプの計3タイプ。バルコニーから日差しがたっぷり降り注いで快適だ。



金山団地町内会の会長を長年務める田中 博さん。75歳以上の高齢者の約42%が単身世帯の金山団地。こういった活動に参加せず、家の中に引きこもりがちな人を外に連れ出したいと、団地サロンの集まりなど、地道な活動を続けている。大学との連携にも「ぜひ継続して」と期待を寄せる。

当初の呼びかけに50人近い人が手を挙げた「食べている食塩を“見える化”する研究」モニター調査。2回目の集まりには約30名が参加した。



「参加した方の口コミでこの活動が周りに広がれば、健康に無関心な人々にも届くのでは」と三好准教授。



「大学の研究は、研究対象者や地域に還元されるべき」と、団地の高齢者が健康で長生きできるお手伝いをしたいと話す安武准教授。



「団地の皆さんのニーズ調査をして、来年度から本格的な取り組みを開始します。高齢者の脳の活性化につながるような講座もできるといいのでは」と抱負を語る片山教授。



毎日の食生活について細かなアンケートに答える。孫のような学生たちに聞きながら、おばあちゃんたちも楽しそう。

Mixed 2 ミクストコミュニティ最前線

# University 福岡

## 団地にも大学にも「win-winの関係」をつくる新しい連携に注目

地域の大学と連携・協力関係を結び、大学の持つ知の力と若いパワーを団地活性化に生かす試みが、福岡市の金山団地で始まっている。

高齢者にも学生にも  
有意義な機会

「今や日本人の3人に1人は高血圧、その原因は塩分の摂り過ぎにあります」  
中村学園大学栄養科学部・安武健一郎准教授の声が、金山団地（福岡市城南区）の集会所に響く。今日は安武先生が中心に進める「食べている食塩を“見える化”する研

紙の前に、学生に丁寧に説明してもらおうお年寄りたち。高齢者にとっては、健康に関する知識を得るだけでなく、若い世代との貴重な交流の機会にもなっている。  
「高齢者と接する機会の少ない学生たちにとっても、社会に出る前にコミュニケーションを学ぶよい機会です」と三好准教授。  
モニターに参加した82歳の女性は「こういう会があると刺激になっていい」と目を輝かす。別の70代の女性は、「自分は健康に関心があるからモニターになったけれど、最近引きこもりがちなお友達が心配。そういう人たちを外に誘えるような企画があるといいのですが」と話していた。  
**大学の強みを生かした連携に期待**  
中村学園大学としても、団地をフィールドとした試みは始まったばかり。大学の強みを生かして、  
①健康増進 ②高齢者支援 ③子育て支援の3つの柱を中心にすすめている。さっそく流通科学部の学生から声が上がリ、今春には「タブレット講座」を開く予定だ。  
「タブレットの使い方を知れば、

究」2回目のモニター集会。尿から食塩摂取量を測定できる機器を使うなど、新しい手法で行う研究で、同団地に住む30名のモニターの皆さんが集まった。

これは同大学とUR都市機構が連携して行う初の試みで、大学側はモニターの皆さんから研究データを収集すると同時に、減塩の大切さという健康増進のヒントを提供する機会になっている。

中村学園大学・同短期大学部とUR都市機構の連携・協力関係は、昨年9月にスタートした。

「これからの大学には、積極的に社会とつながりながら学ぶアクティブラーニングが重要です。学生たちを巻き込んで、地元城南区の団地が抱える問題やニーズを掘り起こし、大学のもつ知見を生かして地域の活性化に貢献できればと考えています」

こう話すのは中村学園大学社会連携推進センター長（流通科学部長）の片山富弘教授。

モニター集会には共同研究する三好恵美子准教授のゼミの学生たちが全員参加して、会の進行を手伝っている。詳細な記入が求められる食生活に関するアンケート用



高齢化が進む一方、交通の便のよさから子育て世代の入居も多い金山団地。

SNSに参加したり、マップを使って行きたい所に出かけたりと、高齢者の世界が広がる可能性がありますね。ここからサークル的な活動が生まれればいいなと思っ

「また、金山団地は地下鉄駅がすぐ近くにできたこともあり、若い子育て世代が多いのも特徴だ。中村学園の幼児・保育教育や発達支援に関する知見を生かして、子育て世代を支援する取り組みも期待されている。」

UR都市機構では中村学園大学との連携を、将来的には他の団地にも広げていきたいと考えている。金山団地から新しい風が吹き始めている。





豊島五丁目住宅で募集時に公開された「健康寿命サポート住宅」のモデルルーム。

# Other Challenge

ミクストコミュニティに向けたさらなるチャレンジ

## 「健康寿命サポート住宅」 住み慣れた住まい・まちで暮らし続けることを目指して

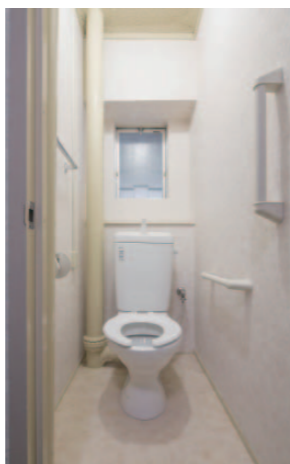
UR都市機構は、高齢者が健康で安全に長く住み続けられることを目指した「健康寿命サポート住宅」への改修に取り組み始めた。

「健康寿命」とは、日常的に介護を必要とせず自立した生活ができる期間のこと。健康寿命サポート住宅は、移動等に伴う転倒の防止に配慮した住宅改修と併せて、散歩したくなるような屋外空間や豊富な社会参画の機会を設け、健康寿命を延ばすサポートをする。

UR都市機構ウェルフェア研究室室長の川上由里子は、長年携わってきた看護や介護の現場での体験から、「今は健康でも、年を重ねれば誰でも心身の機能が低下していきます。そんななか要介護の原因にもなる転倒などの危険を回避し、安全に快適に暮らせる住まいはどうあるべきかを考えています」と言う。

玄関を見てみると、玄関ホールには人感センサー付き照明が設置され、ドアの開閉はゆっくりだ。浴室やトイレにも、高齢になっても使いやすい工夫が施されている。年齢を重ねても安心な住まいは、あらゆる年代の人々に優しい住まいになる。

健康寿命サポート住宅では、来場者や実際の入居者などからの意見も収集し、今後の住宅の改修に反映させていく予定である。



**課題** 夜中にトイレに行く際に、ちょっとした段差でつまずきそうになった。

**解決方法** 段差を極力解消し、トイレ内の移動・立ち上がりをサポートする手すりを設置した。



**課題** 浴槽を出る際に、バランスを崩して転びそうになった。

**解決方法** 転倒しやすい浴室内2カ所に手すりを設置。浴槽のまたぎの高さも従来の住宅より低くなっている。

## 「団地×BBQ」で新たなコミュニティづくり

箕面葉生団地(大阪府箕面市)の集会所の裏手に広がる小さな林。木漏れ日が気持ち良いこのスペースに昨年10月、団地初のバーベキューガーデンがオープンした。

集会所の1室とバーベキューコンロ付きのガーデンスペースをお住まいの方に貸し出し、家族や友人とバーベキュー&コミュニケーションを楽しんでもらおうというねらいだ。

集会所には和室を改修したDIY工房が作られた。大工道具や電気工具が備え付けられており、周りを気にせずDIYが楽しめる空間ができたことで、利用者が増えそうだ。



昨年10月26日のオープニングイベントには、BBQ芸人「たけだバーベキュー」さんが登場。参加者にバーベキューのコツや楽しみ方などを紹介しながら、バーベキューをふるまった。

Mixed 3 ミクストコミュニティ最前線

# Café 東京

## 団地に生まれたカフェが 出会いとぬくもり、 安心を育む

既存の集会所を改修して、みんなが集えるカフェを作った滝山団地。居住者の見守りと、コミュニティづくりの拠点として、団地に欠かせないカフェになっている。

団地のセンター通りに面したカフェ。テラス席のバラソルの設置だけを担当するボランティアスタッフもいる。



### カフェで出会い 元気をもらった

バス通りからまっすぐ延びる並木道。団地のセンター通りに面した「ダイニングカフェ滝山」は、日だまりのテラスに並ぶモスグリーンのバラソルが目印だ。  
東京都東久留米市にある滝山団地では、自治会とUR都市機構が話し合い、これまでの集会所を「滝山あんしんつながりの家」として改修。ここに誕生した「ダイニングカフェ滝山」が、団地と周辺地域の人々が集うコミュニティ拠点となっている。  
オープン前にボランティアスタッフを募集したところ、「普段、自治会活動には出て来られない方も含め、たくさんのお誘いがありました」と自治会事務局長の志賀岑雄さん。現在は35人のスタッフが交代でカフェ運営に関わっている。  
「カフェで出会ったお客さま同士の交流が広がるのはもちろんですが、じつはスタッフにとっても、このカフェは出会いの場になっているのです」



昼のカフェとは異なる人々がやってくる「酒処多来山」。大きなテーブルを囲み、参加者同士の親睦を深めるのが目的だ。



さり気なくお客様に声をかけるカフェ責任者の田原さん(右)。UR都市機構の生活支援アドバイザーと連携をとりながら、カフェで高齢者を見守る。



本日のカフェスタッフ。日本社会事業大学で福祉を学ぶ学生も、ボランティアで参加。「高齢者のお話を聞くことが勉強になる」と言う。

さつそくカフェをのぞいてみると、明るい店内にはいくつものおしゃべりの輪ができていた。  
スタッフの網谷佐文さんは、「夫を亡くし、家に閉じこもりがちだったのですが、ここで働くことで、カフェのスタッフやお客さまから元気をもらいました」と話す。  
カフェの責任者である田原悟子さんは、長年、福祉関係の仕事に



カフェは平日の11~16時。毎週月曜のランチに出すカレーは、40分で完売するほどの人気。他にも豆から煮て作るお汁粉など、ひと工夫あるメニューが並ぶ。

携わってきた経験を生かし、お客さまの見守りを怠らない。いつもと様子が違うなというときには、さりげなく声をかける。  
「1人で暮らす高齢の男性も多いので、積極的に話しかけるようにしています」と田原さん。  
このカフェは毎月第3土曜の夜「酒処多来山」に変身する。店内には大皿に盛られたスタッフ手作り料理とお酒が並ぶ。会費は500円。参加者は、団地の棟番号を書いた名札を胸につける。  
「どんな様子か見に来ました」とはじめて参加した女性2人。「知っている方が何人もいらしたので、安心しました」とおしゃべりの輪に加わった。  
ここに来れば仲間に見えるという安心とぬくもり。滝山団地のカフェは今日も満席だ。

人気プロガーの団地DIY術③

Before 入居当時のふすま

After 現在

装飾のためのモールディングは、マイターボックスという便利な工具を利用すれば、端を45度にカットできるので、よりオシャレに仕上がります。



最初に、重ねて塗ることでひび割れ模様が出る「クラック塗料」を、その上から本番の色の塗料を塗り重ねます。よく人が触れる部分をクラック塗料でひび割れさせると、アンティーク感がアップ!

My Favorite Door



「UR PRESS」オンライン版では関東在住のプロガー MakeesさんのDIY術を紹介しています。「UR PRESS」で検索してください。次号はMakeesさんが誌面に登場予定です。

団地をリノベーションすることで、自分らしい、心地よい暮らしを実現している東西の人気プロガーが交替でDIYの楽しみ、ポイントを伝授します!

Blogger

Kume Mari (関西在住 夫と子どもとの3人暮らし)



ふすまがスライド可能なアンティーク調ドアに変身!

決して悪いものでなく、むしろ便利なのだけれど、洋風インテリアにしたいと思うと、困ってしまう「ふすま」。あるとき、「そうだ! ふすまをドアに替えて、レールはそのまま使ってスライドさせよう」と思い立ったが吉日、Let's Do It Yourself! アンティーク調のドアに作り替えました。

ふすまサイズの合板の上に、好きな形に木材や装飾用のモールディング(細長い板状の装飾用造作材)を並べて長さを測りながらカット。接着剤で貼り付け、その上から塗料を重ねて塗りました。お気に入りの取っ手をつければ……ほら、まるで昔から使っていたかのようなアンティーク調ドアの完成です!

ふすまのレールに合わせた幅で作ったドアなので、簡単にスライドさせることができます。

Kume Mariさんのブログ「Smile Happy Sweet Home」 http://ameblo.jp/magichappiness/ 2冊目の著書『Mari'sマジックで簡単! おしゃれ部屋づくり』(宝島社)が昨年12月に発売に。

島田順子スタイル マガジンハウス編/マガジンハウス 1,500円

決して若作りなどではなく、いくつになってもナチュラルでありながら華やかさとチャーミングさを失わない島田順子さんのファッションとライフスタイル。自分らしく年を重ねることを心から楽しもうと素直に思える素敵な本です。



詩を書くということ 谷川俊太郎/PHP研究所 1,200円

日本を代表する詩人で、年齢80歳を超えてもますます精力的に活動している谷川俊太郎さん。活動初期から変わらぬ瑞々しい感性と旺盛な好奇心。それらを支えられた谷川さんの創作活動の秘密に迫る一冊です。



世の中にはふたつのタイプの人間が存在します。年を重ねるにつれ角が取れて丸みを帯びていくタイプの人間と、年を重ねることに角がシャープに磨かれより先鋭的になっていくタイプの人間。本書に登場する、独特老人28名は、みな例外なく後者です。

口から溢れ出す金言至言の数々をすくいとるのは名編集者の後藤繁雄さん。さらに独特老人たちの圧倒的な存在感を焼き付けたポートレートは荒木経惟さんら3名によって撮影され、本の装幀は日本を代表する芸術家である横尾忠則さん、本文構成を屈指の売れっ子デザイナー祖父江慎さんが手掛けています。つまり本書に関わっている人物全員が超一流のオールスターキャスト! これで面白くないわけがないですよ。独特老人たちの生き様をとくとご覧あれ。



独特老人 後藤繁雄/筑摩書房 1,500円

ブックセレクト 三田修平

みたしゅうへい ブックディレクター。移動式本屋「BOOK TRUCK」で全国各地のイベントなどに参加するほか、2013年には大倉山集合住宅I(神奈川県)内に「BOOK APART」を開店。 https://www.facebook.com/Booktruck

世界の扉を開く本⑤ 格好よく年を重ねる



\*価格はすべて税別です

ベランダ菜園の楽しみ③

たなかやすこ

今号のテーマ

春のはじめに小カブの種をまく



大寒から立春にかけては、1年のうちでもっとも寒さの厳しい季節。ベランダでの作業もちょっとつらい、こんな季節の楽しみは、春からの栽培計画を練ることです。種苗会社からカタログを取り寄せて、今年はどこに何を植えようか考えていると時間を忘れるほどで、これを「こたつ園芸」といったりします。

春になったらまず栽培を始めたいのが、生育適温が比較的低い(15度程度)カブ。カブは葉もおいしいので、間引いたものも料理に使いつつ、大きく育てていく楽しみがあります。

とても小さなうちは、姿のままお吸い物などに入れても素敵ですし、若いカブは皮をむかずにそのままサラダ



ジュートの新聞ストッカーをプランターに利用することもできる。鉢底石はネットに入れて使うと再利用の際に便利です。

にしてもとってもクリーミーです。

大きく育てたものを、土からぐっと引き抜くときの収穫の楽しさは根菜ならではの。ベランダで畑仕事の雰囲気味わえるので、小さなお子さんがいるおうちではとくに楽しめると思います。

私は、雑貨屋さんで見かけた新聞ストッカーを栽培に利用しています。素材はジュートで内側には透明フィルムがラミネート加工してあり、深さは25センチほど。このように、プランター以外の容器を工夫して栽培に使うのも楽しいものです。

カブは日本人にはなじみの深い野菜で、とても古くから栽培されてきました。地方色豊かな品種もいろいろあります。地元の品種を育てるのもいいですし、生まれ故郷の品種を取り寄せて種をまいてみるのも、ベランダ菜園の楽しみの一つでしょう。



たなかやすこ イラストレーター、ガーデニングクリエイター。1957年北海道小樽市生まれ。著書に「とれたての幸せ。はじめてのベランダ菜園」(集英社)、『おいしいベランダ菜園 シンプル&エコに育てる』(家の光協会)ほか。

育ててみよう

cultivation 小カブ

カブは大きさによって小カブ、中カブ、大カブに分けられますが、ベランダ菜園におすすめなのは直径5、6センチの小カブ。ここで紹介しているのは、あやめ雪という品種。春まきは50日ほどで収穫できます。

Step 1 たっぷりと水をやった土に、深さ1センチの筋を2本つける。筋と筋の間隔は10センチ。そこに1センチ間隔で種を一粒ずつおき、指で土をかぶせる。 ※プランター以外の容器を使う場合は、底に必ず小さな穴をいくつかあけること。

Step 2 本葉が出てきたら少しずつ間引き、本葉4、5枚のときに株間6センチになるように間引く。間引いた葉も味噌汁などに使う。表面の土が乾いたら水やりはたっぷりと。水やりをすることで、土中に新鮮な空気を送り込むことができる。



間引き菜も、だんだんカブらしくなってくる。

Step 3 間引いていると、残した株もぐらぐらしてくるので、増し土をして株を安定させる。

Step 4 直径6センチ程度に育ったら本格的な収穫です。

田中 淳=撮影





### 南三陸キラキラ丼

これが名物「南三陸キラキラ丼」。写真は「創菜旬魚はしもと」のいくら丼。



●創菜旬魚はしもと  
☎0226・29・6343

「創菜旬魚はしもと」で、ご当地グルメ「南三陸キラキラ丼」を注文した。運ばれて来たと思ったら、思わず声を上げてしまった。なんてきれいで贅沢な一品なのだろう。自家製醤油タレに漬け込んだという、たっぷりの南三陸産のイクラが、サーモンとともに美しく盛りられている。さらにサケの竜田揚げやメカブの酢の物と味噌汁、漬物までついている。

地元の旬の恵みをふんだんに盛

### 自慢のご当地グルメ 南三陸キラキラ丼

南三陸さんさん商店街の一軒  
回遊し、週末になるとフードコートや特設ステージでさまざまな企画・イベントが開催され、にぎわっているのだ。



南三陸さんさん商店街の皆さん。

©南三陸ががんばる各場面フォトプロジェクト Photo by 浅田政志

買い物も  
イベントも  
楽しめる  
交流拠点です！

### 南三陸復興まちづくり情報センター



南三陸さんさん商店街の東門の近くに昨年オープンした「南三陸復興まちづくり情報センター」。「模型やパネルで、工事の進捗状況や復興後のまちの様子をわかりやすく紹介していますので、ぜひいらしてください」と同情報センターの阿部由香さん。  
開10～16時 休日・月曜日

### 南三陸へ

宮城県の北東部に位置する南三陸町は、東は太平洋に面し、周囲三方を山に囲まれている。リアス式海岸が広がる景観美とともに、その豊かな海からの恵みの幸も魅力。アクセスは仙台から約90km。仙台駅前から高速バスが運行(所要約2時間)。また、柳津⇄南三陸町⇄気仙沼をJR気仙沼線BRT(バス高速輸送システム)が運行している。

**観光ガイド**  
南三陸さんさん商店街に隣接する「南三陸ポータルセンター(南三陸町観光協会)」では、宿泊や漁業、レジャー体験などの観光情報を発信。マウンテンバイクや電動自転車のレンタル(有料)も行っている。

◆南三陸の観光・物産などの問合せ  
南三陸町観光協会  
☎0226・47・2550

Minamisanriku Data



### モアイ像

1960年のチリ地震津波をきっかけにチリ共和国と友好関係を深めてきた南三陸町。南三陸さんさん商店街の隣りには、「悲しみを癒し、復興を見守る存在になること」を願って、チリ・イースター島から贈られた高さ3mのモアイ像が立っている。眼が入ったモアイ像は世界でも珍しく、眼を入れることでマナ(霊力)が宿るといわれている。

「南三陸では天然のタコやウニ、アワビが捕れますし、ワカメやカキ、ホタテ、ギンザケなどの養殖も盛んで食材が豊富です。とれたての新鮮な食材は濃厚な旨みがあるので、季節ごとのキラキラ丼をぜひ味わっていただきたい」

近隣には大人数を受け入れられる食事処がないため、団体客の食事を商店街の飲食店で手分けして用意し、フードコートで提供することもあるという。それが可能なのも商店街として集まったことで、周囲にお店や施設も集まってきた。南三陸さんさん商店街は町の復興の象徴であり、今や観光でも外せないスポットになっている。

ひ味わっていただきたい」  
と語る「創菜旬魚はしもと」の店主・及川満さんは、震災前は地元ホテルで腕をふるっていた料理人。「自分の店をもつのが長年の夢だったんですが、震災で家も目標も失って。そんな時に、さんさん商店街に店を出すことができ、お客さまも来てくれて、本当にありがたいです」

復興の「今」を見に来て！  
第3回  
南三陸町  
宮城県 Part 1

## 人が集い、笑顔で触れ合う 南三陸さんさん商店街

海と山に囲まれた南三陸は水産漁業や農業で栄えてきた自然豊かなまち。東日本大震災で町内の6割以上の建物が流失したが、失意のなかで地元商店主たちが作り上げた仮設商店街が今、東北一元気な商店街になっている。



まち並みを失ったから、まち並みを模した戸建ての商店形式にこだわったという南三陸さんさん商店街。2月には3周年記念イベントも予定されている。  
☎090・7073・9563(代) 南三陸町志津川字御前下59の1

**東** 北で一番元気な仮設商店街として評判なのは、南三陸さんさん商店街(南三陸志津川復興名店街)。飲食店に地元物産品を扱う店、そして生活用品店など多様な33の店舗が軒を連ねる南三陸町の買い物の拠点だ。

誕生のきっかけは、東日本大震災から1カ月半後に開催された「南三陸町復興市」。災害時に支援し合う全国組織「ぼうさい朝市ネットワーク」の協力のもとに行われたその復興市には、2日間で1万5千人が集まり、避難中の人々が再会を喜び合う姿があちこちで見られたという。

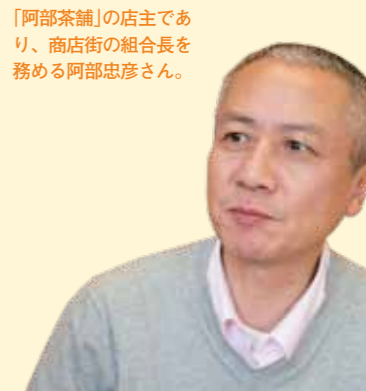
「その時、お店というのは単に買物の場ではなく、触れ合いの場、癒しの場にもなっているんだと気づかされた」と語る。

### 地元の人たちの 触れ合いの場を

その後、店の再開を望む地元の人たちの声を受けて、立ち上がった商店主たち。議論を重ねて「復興名店街」を組織化し、「地元住民のコミュニティ維持と再生の場」としての「南三陸さんさん商店街」をつくり上げた。

2012年2月にオープンして予想外だったのは、地元客以外にもボランティアや被災地視察の関係者など多くの人が来店してくれたことだと阿部さんは語る。

2階建ての集合建物ではなく、各店が横に並び、フードコートのあるパティオ形式にしたのが、結果として大成功。人々が商店街を



「阿部茶舗」の店主であり、商店街の組合長を務める阿部忠彦さん。



URが造成・建設を担当した町営名足復興住宅。2K～3DKの2タイプが28戸。



町営入谷復興住宅は42戸。2棟を斜めに配置している。

## 地域性に配慮した 集合住宅を

災害公営住宅については、昨年7月に「町営名足復興住宅」と「町営入谷復興住宅」の2カ所が完成し、町民が入居している。いずれもコミュニティづくりのための広場や集会所を設置し、自然・地

域性に配慮した設計だ。「名足の集合住宅でこだわったのは、海を望む配置。住棟だけでなく集会所からも海が見えますし、バルコニーの囲いも透明な素材を使用しています」と語るのは、UR都市機構南三陸復興支援事務所・住宅計画課の宮川拓也だ。建築職で入社した宮川は、南三

陸に着任以来、新たな住宅建設への挑戦や迅速な進行にやりがいを感じているという。同時に、完成した住宅でのコミュニティスペースの使われ方などを気にかけ、現地に足を運び、住民の声に耳を傾けることも忘れない。この日は歌津名足の災害公営住宅で自治会長の梶原義人さんと談笑。台所のスペース拡大のための設計変更で苦労した集会所について、使い勝手がよく、ミニコンサートやクリスマス会に忘年会と大活躍していると聞いて、ひと安心。「津波で家が流されたけど、やっぱり海はいいね。ここは部屋で座っていても海が見えるんだからありがたい」と言う梶原さん。収納

### 進捗状況をわかりやすく紹介

「南三陸復興まちづくり情報センター」を開設したり、造成中の高台を見学し、使用している重機に試乗できるイベントを町と共同で開催するなど、UR都市機構では住民にまちづくりの進捗を理解してもらう工夫を続けている。

スペースが多く、部屋の使い勝手は大変よいと評判は上々だ。現在建設中の志津川東（第一、第二）、志津川中央の3地区の災害公営住宅は2016年度に完成予定。ここでも自然や地域のきずなを配慮したまちづくりが進められている。



自治会長の梶原義人さんに話を聞くUR同事務所住宅計画課の宮川拓也。背後に広がるのは太平洋。

使い勝手を  
確認しています！

南三陸では  
自然と共生する  
まちづくりが  
重要です

志津川湾を望む、区画整理中のかさ上げ地域。ここに新たなまちが誕生する。



復興の「今」を  
見に来て！  
第3回  
南三陸町  
宮城県 Part 2

## 「自然に寄り添う暮らし」の 復活・実現に向けて

「自然・人・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち」を復興計画の基本理念に掲げる南三陸町。

2012年8月に南三陸町と協力協定を締結したUR都市機構は、志津川地区の高台造成と低地部の区画整理、災害公営住宅の建設を担当。豊富な経験とマンパワーを生かし、復興まちづくりを多角的にサポートしている。

南三陸町では、「なりわいの場所はさまざまであっても住まいは高台に」を最優先に掲げ、居住地域は高台に限定。志津川の中心市街地である低地部は盛土に

よるかさ上げを行い、観光・交流拠点、水産関連エリアなどと区分けしたまちづくりを推進している。復興市街地のグラウンドデザインを担当したのは、世界的に活躍する建築家の隈研吾氏だ。60haに及ぶ市街地の整備は、国道や県道、河川をはじめ、さまざまな関連公共施設の整備等との膨大な調整に加え、区画整理事業として換地を決定することも重要。換地に当たっては地権者に移転先の希望を申し出てもらう「申出換地」方式を進めている。

約200人の地権者との重要なジョイント役を担い、話し合いを行っているのがUR都市機構南三陸復興支援事務所・換地担当の佐藤久弥だ。南三陸町戸倉地区出身で小学1年の時にチリ地震津波を体験している佐藤は、震災前の志津川のまちの様子や商店・施設の名称を理解しているのが強み。一昨年4月の着任以来、地元の人々の気持ちに寄り添いながら、丁寧な仕事を続けている。佐藤を支えるのは、「震災前より魅力的な志津川となるよう、まちなみを整えたい」という強い思いだ。

約200人の地権者との重要なジョイント役を担い、話し合いを行っているのがUR都市機構南三陸復興支援事務所・換地担当の佐藤久弥だ。南三陸町戸倉地区出身で小学1年の時にチリ地震津波を体験している佐藤は、震災前の志津川のまちの様子や商店・施設の名称を理解しているのが強み。一昨年4月の着任以来、地元の人々の気持ちに寄り添いながら、丁寧な仕事を続けている。佐藤を支えるのは、「震災前より魅力的な志津川となるよう、まちなみを整えたい」という強い思いだ。

## 海を見ながら 暮らしたい

佐藤と同時期に着任して以来、南三陸の人々の生活に、海や川、山など自然が深くかかわっていることを痛切に感じているのは、市街地整備課の松本悟だ。志津川湾に建設中の防潮堤の高さは8・7m。それに対して新市街地を標高10m以上にかさ上げしているのも、防災は重要だけれど、海を見ながら暮らしたい」という住民の想いを反映したものだ。「他にも、大きな河川堤防ができ

UR都市機構の松本悟(左)と佐藤久弥(右)。中央は、南三陸町CMJVの清水文雄さん。



UR都市機構からのお知らせ

## INFORMATION

### 「東日本大震災 復興フォト&スケッチ展2014」 「UR賃貸住宅 団地景観フォト&スケッチ展2014」 審査結果発表

**昨**年、UR都市機構は2つの公募展を開催しました。東日本大震災からの復興支援を目的とした「復興フォト&スケッチ展」と、団地ならではの魅力発見・共有を目的とした「団地景観フォト&スケッチ展」。同時開催した公募展には全国から919作品の応募があり、厳正な審査の結果、46の入賞作品が決定しました。

誌面では、それぞれのフォト&スケッチ展の大賞およびUR理事長賞など6作品をご紹介します。UR都市機構のHPで入賞作品はすべて、ご覧いただけます。

- 東日本大震災 復興フォト&スケッチ展2014  
<http://www.ur-net.go.jp/fukkou-photosketch/contest2014/result/>
- UR賃貸住宅 団地景観フォト&スケッチ展2014  
<http://www.ur-net.go.jp/urbandesign/sumit/contest2014/result/>



●復興の歩み 大賞(フォト)  
タイトル：家族  
撮影場所：福島県いわき市  
石森文夫さん 60歳



●復興の歩み 大賞(スケッチ)  
タイトル：復興の楯音  
場所：岩手県陸前高田市  
吉田征輝さん 70歳



●団地景観 大賞(フォト)  
タイトル：朝日に背にランニング  
団地名：芦屋浜(兵庫県)  
高橋一吉さん 64歳



●団地景観 大賞(スケッチ)  
タイトル：全員集合  
団地名：若久(福岡県)  
村上綾さん 24歳



●団地景観 UR理事長賞  
タイトル：お手手つないで  
団地名：豊島五丁目(東京都)  
多和裕二さん 66歳



●復興の歩み賞(UR都市機構選)  
タイトル：希望の花壇 \*職員投票により選定  
撮影場所：宮城県気仙沼市  
商家訓さん 77歳

#### UR賃貸住宅で 津波防災に向けた活動を実施

UR都市機構は、賃貸住宅にお住まいの皆さまへ「津波防災の日(11月5日)」の普及・周知を図ることで津波対策への意識を高める活動に取り組んでおり、昨年はポスターの掲示や団地内避難訓練を実施しました。



保育所から隣の住宅棟へ避難する園児たちと先生

▶全国のUR賃貸住宅にお住まいの皆さま向けの情報誌(管理報10月号)に、「津波防災の日」に関する記事を掲載し各戸に配布。  
▶横浜市中区のUR賃貸住宅(シャレール海岸通)で、津波の襲来を想定した団地内避難訓練を実施。お住まいの皆さま、団地内保育園などのテナントの皆さまにもご参加いただきました。訓練後には「防災に関する講演会」も開催。



今後も自治体等と連携を図り、安心してお住まいいただける取り組みを進めていきます。「津波防災の日」ポスター

#### From Editors

朝の通勤時間帯に小学生を横断歩道で誘導するおじいちゃんは、私が通れば、「もうそんな時間か」とつぶやき、8時10分の人と認識してくれています。そういえば私も毎日同じ時間にすれ違う人を見て何となく安心し、見当たらないとなぜか心配してしまいます。昔の団地や住宅地では、近所の人たちが互いに声を掛け合っていたと聞いています。些細なことでも、見守られるということが安心につながるのかなとつくづく感じる今日この頃です。(UR都市機構・広報担当M)

#### 次号のお知らせ

「UR PRESS」41号は2015年4月末発行予定です。お楽しみに!

#### 「UR PRESS」オンライン版も お楽しみください!

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS で 検索  
<http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>



#### URのツイッター

UR都市機構のツイッターでは、イベント、キャンペーン、募集情報などをタイムリーに発信しています。こちらもぜひアクセスして、最新の情報をゲットしてください。

[https://twitter.com/UR\\_TOSHIKIKOU/](https://twitter.com/UR_TOSHIKIKOU/)

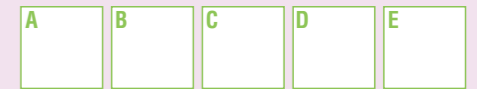
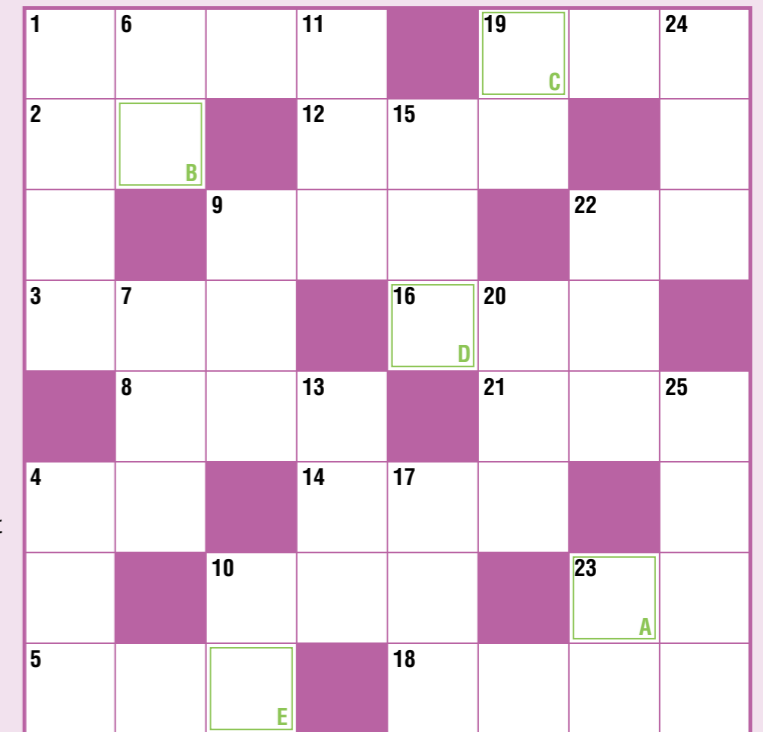


プレゼント付きクロスワードパズル

パズル制作 ニコリ

## ヨコのカギ

- 1 配線は危険なので避けましょう
- 2 めったにないこと
- 3 長さの単位。1——は約1.6キロメートル
- 4 あんまり——を詰めると倒れちゃうよ
- 5 ピアノは鍵盤——、ギターは弦——
- 8 ちょきちょきと切ります
- 9 我が家の——のひもは妻が握っています
- 10 お湯を沸かすときにも使う炉
- 12 お湯を沸かすときに使う道具
- 14 ドラゴンや河童は——の生き物
- 16 にっこりスマイル
- 18 ヘア——を変えて、イメージチェンジ
- 19 最もよい。——テンは、すぐれた順に上から10番目までのこと
- 21 家の中にある通路
- 22 朝—— 羽子板—— 見本——
- 23 稲からとれます



## タテのカギ

- 1 ちょっと背が高くなった気分が味わえる遊具
- 4 流域は古代文明の発祥地としても知られる中国の大河
- 6 どちらも——乙つけがたいな
- 7 交通——で切符を切られた
- 9 ソースの名前にもあるラテン音楽
- 10 70歳の異名
- 11 照れ屋さん
- 13 手で皮をむいて食べる果物
- 15 疲れたな、ちょっと——でお茶にしよう
- 17 ——ワードパズル ——カウンター
- 19 交通の——がいいところへ引っ越した
- 20 絵がたくさん飾られていますが美術館ではない
- 22 火薬やマッチに用いる元素記号S
- 23 魚偏に里と書くと
- 24 一休さんや吉四六さんは——の名人です
- 25 ——ソースがかかったカスタードプリン

## プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

### PRESENT

1 日本酒  
「福興祈願 南三陸」  
5名様

復興へかける南三陸の想いをオリジナルラベルにあらわった地酒「福興祈願 南三陸」金紋両国 特別本醸造。魚介類に合う濃厚辛口タイプです。720ml。



\*ご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

### PRESENT

2 「独特老人」  
3名様

吉本隆明や水木しげる、大野一雄、淀川長治など各界の重鎮28名の名言が詰まったインタビュー集。荒木経惟ら3名の写真家が撮影したポートレートも迫力満点です。



### PRESENT

3 ぴあMOOK  
「理想の部屋さがし  
ぴあ首都圏版」 10名様

UR都市機構が取材に協力したぴあMOOK。1月8日に発売された「理想の部屋さがし ぴあ首都圏版」にはUR賃貸住宅の魅力が満載です。



#### ●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

#### ●応募締め切り

2015年4月30日(当日消印有効)

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

## 39号の解答

リス タ イ ル

